

瀬戸内みらい会議（社会教育）

平成 21 年 11 月 19 日（木）19 時～21 時

瀬戸内市役所 3 階 第 3 会議室

参加者：公民館グループ、文化協会、体育協会、スポーツ少年団から
男性 7 人、女性 1 人

市民から出た意見と市長の反応

テーマ：学びの機会を通じて、より豊かな人間性を育み、人との関係を築ける
まち

- ・大雑把に言えば、牛窓の将来については、少子・高齢化が避けて通れない問題。老人社会を逆手にとって、「高齢者憩いの街」というのを目標にしてはどうか。市内だけではなくて、諸外国（例：アジア系）の高齢者が集まるような仕組みを作ってみてはどうか。ひとつの案として、農振の転用の緩和策を講じた上で、高齢者が集まるような手立てを考えてみる。例えば、上海では海を見たことがない人も奥地に住んでいる。こういう人が瀬戸内に集まってくるような仕組み。
- ・牛窓の空気は美味しい。
- ・30 年以上合唱に携わっている。一口で言えば、音楽があふれている街にしたいと思っている。ジャンルを問わず音楽会やコンサートが開かれるような街になれば人が集まって来るだろう。現状では、音楽会を開いても人が集まって来ない。音楽を通じた文化の向上を実現したいが、行政も含めた関心がない。プロの音楽家を呼んできて、市民が関心を持ち、高まっていくことが必要。地元で、色々な団体がバラバラに活動しているが、ジャンルを超えて一まとめりになって盛り上げるようにしていきたい。また、子供たちの音楽環境がどうなっているのかわからないが、昔に比べて合唱団等の活動が停滞していて、みんなで何かを創り上げる機会がないのは残念。情緒深い子供を育てたい。
- ・30 年後の瀬戸内市を担うのは、今の小中高生。
- ・瀬戸内市は、剣道や陸上が強い。しっかりと応援していきたい。ハード面では、様々な競技施設の充実を図って欲しい。少子化という問題を考えると、例えばマラソン大会に出場する子供の人数が減ってきている。一方で、頑張っている子供たちにもしっかりと光を当てていきたい。スポーツが出来ない子供たちには、ニュースポーツをはじめとしたきっかけを与えていってほ

うか。10月のスポーツフェスタ（体育協会）のような機会を通じてとっかかりが出来れば良いと思う。

- ・体育協会も NP0 法人になり、市の指定管理を受ける予定で頑張っているが、見本としていた総社市の体育協会が NP0 法人となったものの、指定管理を受けられず、施設管理に支障が出てきていると聞く。今後、行政の支援をお願いしたい。
- ・スポーツ振興計画の中で、邑久スポーツ公園の前のところ（野球場の北側）に新しい施設をつくろうという計画があった。現状を考えると、錦海塩田跡地を総合スポーツ拠点にするということが可能ではないかと思う。陸上競技場や野球場、グラウンドゴルフ場など。地盤が悪いため、建物は無理かもしれないが、観客席ぐらいならできる。日本最大のグラウンドゴルフ場を作って全国大会を開催するというのもおもしろい。市内の体育館は、どれも小さい。三町で中途半端なものを三つ作っている。何か一つでも全国に誇れるものを…。

（市長）現在の錦海塩田跡地は管財人が管理している状況。今後の状況を見守る必要があり、青写真も描きにくいことを理解してほしい。

- ・スポーツ少年団も少子化の影響が大きい。ただ、少子化の影響だけでは片づけられない問題もある。子供の意思だけではなく、親の意思も影響しているのだろう。幅広い年代を通じた交流ということが書かれているが、サッカーなどは良い機会。他のチームとの交流や、スポーツフェスタにおけるプロ（ファジアーノ岡山）との交流を通じて、子供たちの目を引くようなことをやることは意義が大きい。また、そのような場に出てこない子を引っ張り出すのも重要。昔は、地域の運動会に色々な世代の人が参加して、運動することの楽しさを伝えていた。その楽しさをそのままスポーツ、スポーツ少年団活動につなげられれば良いと思う。地域の人を巻き込んで楽しくやることは重要。さらに上の年代の方と触れ合いながら参加することの出来るスポーツの場があれば良い。運動会などは、良い機会。今は、親の都合で出て来られない子供も多いため、そこは解決すべき課題の一つ。地区の人が連れ出す等、『地域力』を発揮する。
- ・ずっと野球というスポーツに携わっている。牛窓シーファイターズの監督。人は、成人し、高齢者になっていくが、始まりは全て『子供』。昔に比べると、今の子供は夢を持っていないような感じがする。子供に興味を持たせてあげるように工夫をしている。色々なスポーツ少年団があるが、半分くらいの子供はスポーツに携わっていないはず。そのような子供は、歌なりお花なり他の興味分野があるはずなので、そこを上手く導いて、やる気を持ち続けさせ

る『育成』をしてあげるのが重要。これをやりたいと思える気持ちを育てる。やる気になれば何十年でもできる。精神面も含めた活性化を図っていくことが重要。青少年の健全育成にもつながると思う。

- ・ 賞を取った子供などを広報誌で取り上げるなど、やる気を持たせて、長く続けられるような仕組みを作っていくことも重要。夢を持ってスポーツをやっていけるという場を作ってあげたい。スポーツだけではなく、色々な面で幅を広げていくことが大切である。
- ・ 以前は、旧町で実施していた体育祭で全国大会クラスに出た子供を壇上に立たせて表彰していた。合併後、予算不足もあり下火になった。

- ・ 「人を育てるまち」、「地域に誇りを持つまち」になるのが重要。子供であれ、大人であれ重要なポイント。名刀や朝鮮通信使などの文化を大切にすることで、子供も育っていく。地域に誇りを持たないようでは、子供たちが育たないし、文化を大切にする市民が増えなければいけない。瀬戸内市内で有料のイベント、コンサートをするとなかなか人が集まらない。その意味では、瀬戸内市民の文化度が低いのではないかとさえ思っている。身銭を切っても、諸活動に参加するような意欲の高い市民を育てていきたいと考えている。子供を育てるためには、やはり投資をして欲しいと思う。色々な体験の場を増やして、参加するという土壌を形成していくべき。その観点から欠けていると思うのは、学校教育と社会教育との関係。どうしても、学校教育の方に流れてしまっている傾向がある。喜之助フェスティバルをしても、学校の先生がなかなか見に来られないのは残念。先日、ある観光業者から「社会教育関係の施設や資産をもっと公開してもらいたい」という声があった。例えば、古墳を見に行きたいと思っている人がたくさんいても、それが紹介されないという指摘があった。今、一般の観光客のニーズは、そちらに移っている。

(社会教育課長) 個人の敷地内の場合は、公開が難しい。市の広報の中では、積極的にお知らせしてはいる。

(市長) 子供を対象にしたみらい会議を開催してみて、子供たちには以前参加したイベントの印象が強く残っていることを感じた。心の宝になっているのだと思う。地域を愛する子供を育てるには、そうした体験が重要だと感じた。

- ・ 書道の展覧会活動を続けているが、個人で取れるものはほとんど取ったと考えているが、これからも精進が必要。
- ・ 邑久で『邑おこし塾』というのをやっていたが、その中の大きなイベントとして、バルーンフェスタがあった。市からは 20 万程度で、200 万程度を全て個人の負担を集めて実施した。しかし、イベントの拡大に応じて予算が伴わなくなり、挫折した。個人での活動は限界があると感じた。
- ・ また、スポーツと同様に文化関連の協会を作るべきとの声に応じ、文化協会

を設立し、50 団体程度で組織化が成功している。その後、合併期にも 3 町の団体の組織化（70 超団体、会員 800 名）に奔走した。市では出来ないものを、文化協会が汗をかいてやるというスタンスで動いている。市と文化協会とが協力して、相乗効果を上げられるように意識している。そのためには、継続が出来るような企画が重要であり、今後は、若い人の力も借りて、発想を活かしていきたいと考えている。市の関与の仕方は、『助成』というよりも、『場』の設定が重要。色々な点で、体験をさせるような場を増やしてあげることが重要である。

- ・ 社会教育と行政との連携も重要。どちらかが前面に出ると、どちらかが後ろに下がる。市民も行政もお互いが意識を高めて、みんなで一緒にやろうという気持ちを持つことが大切。そのための雰囲気づくりも重要。今までのあまりにも行政に頼っていたからかもしれない。

（市長）どのような場面で「行政と一緒にやってくれている」と感じられるか？

- ・ 行政担当者が見に来てくれることが重要。
- ・ 議員も、文化に対しては感度が悪い。
- ・ 牛窓の文化祭の際に、寂しかったのは教育長が来なかったこと。また、中学校の中でやっているのに、先生や子供が来なかったのも残念。お金の問題ではない。作品や活動を評価してもらいたい。

- ・ 姉妹都市等とのスポーツ交流については、市はどのように考えているか？以前は、対馬とサッカー交流をしたりしていた（朝鮮通信使を通じて）。瀬戸内市として、今は停滞しているのではないか？合併後はやっていないようだ。人が動けば活性化が期待できる。

- ・ 公民館ではなく、市民会館にして有料イベントをやるくらいにならないといけない。そうすることによって、人が動き、活性化が可能になる。

（公民館長）以前にも同様の提案があったため、県に相談したところ、「目的外使用については緩和の方向にある」との趣旨説明を受けた。例えば、公民館施設のあるホールや部屋を『文化センター』という名目で使うのは良いのではないか、とのこと。社会教育的な使用という筋を外さずに優先的に使うようにして欲しいというコメントを頂いた。

- ・ 西大寺の「市民劇場」は盛り上がっている。ボランティアが車の誘導をやっている。人が動くことが重要。

- ・ 公民館とゆめトピアとは違うのか。

（公民館長）社会教育施設かどうかで違う。

- ・ゆめトピアは固い。利用時間が極めて限定的な印象がある。
- ・運動で言えば、良いコーチを招くことが重要ではないか。レベルが上がるだけでなく、選手がやる気にもなる。
- ・立派な人を招いて、憧れを持ってもらったり、間近で見るというのは非常に意義がある。ある程度名が知れた人を呼んで、活性化を図ることが重要であると思う。
- ・宝くじ、県のトップアスリート事業等、色々な補助金があるので、上手く使うことが重要だろう。

(市長) お金だけではなく、人と人との交わりの機会を作っていくことの大切さをあらためて認識した。様々な活動をしている方々に対する支援を行政としてどのように行っていくのか。行政としての役割を見せる必要がある。

また、子供たちの活躍している姿を多くの人に見てもらえる機会をどれだけ作れるか。お金はなくてもたくさんできることはある。例えば、お金を持ち寄って懸垂幕をつくるとか……。

また、補助金の仕組みについても現在検討している。市民の方々に知恵を絞ってもらえる仕組みにしたいと考えている。財源については、色々なところからもらってきくことも考えていきたいと考えている。今年度は、イベントの補助金を凍結したが、今年1年の間に市民活動団体を支援する仕組みづくりを考え、来年以降にお示ししたいと考えている。